



第41期 事業報告書

平成17年4月1日～平成18年3月31日

大成ラミック株式会社

証券コード 4994

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける唯一のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等

さまざまな業種の

包装ニーズに的確に応えて

液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に

集中・特化させ、独創的なシステムを

構築することにより、

トップブランドとしての

地位を築いています。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、第41期事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績

当期におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に設備投資や個人消費が増加し、景気は回復基調で推移いたしました。しかしながら、国際情勢に伴う原油価格の動向や国内の金融政策などの先行き不透明な要

因もあります。

当軟包装資材業界におきましては、樹脂、フィルムなどの原材料価格の高騰による影響もあり、依然不安定な状況が続いております。

このような状況下において、当社は、全社を挙げて積極的な営業活動を展開し、受注量の確保と売上高の増加に努めました。

その結果、売上高は143億39百万円（前期比6.3%増）となり、利益面では、経常利益は14億36百万円（同4.1%増）、当期純利益は8億86百万円（同10.1%増）と増収増益となりました。

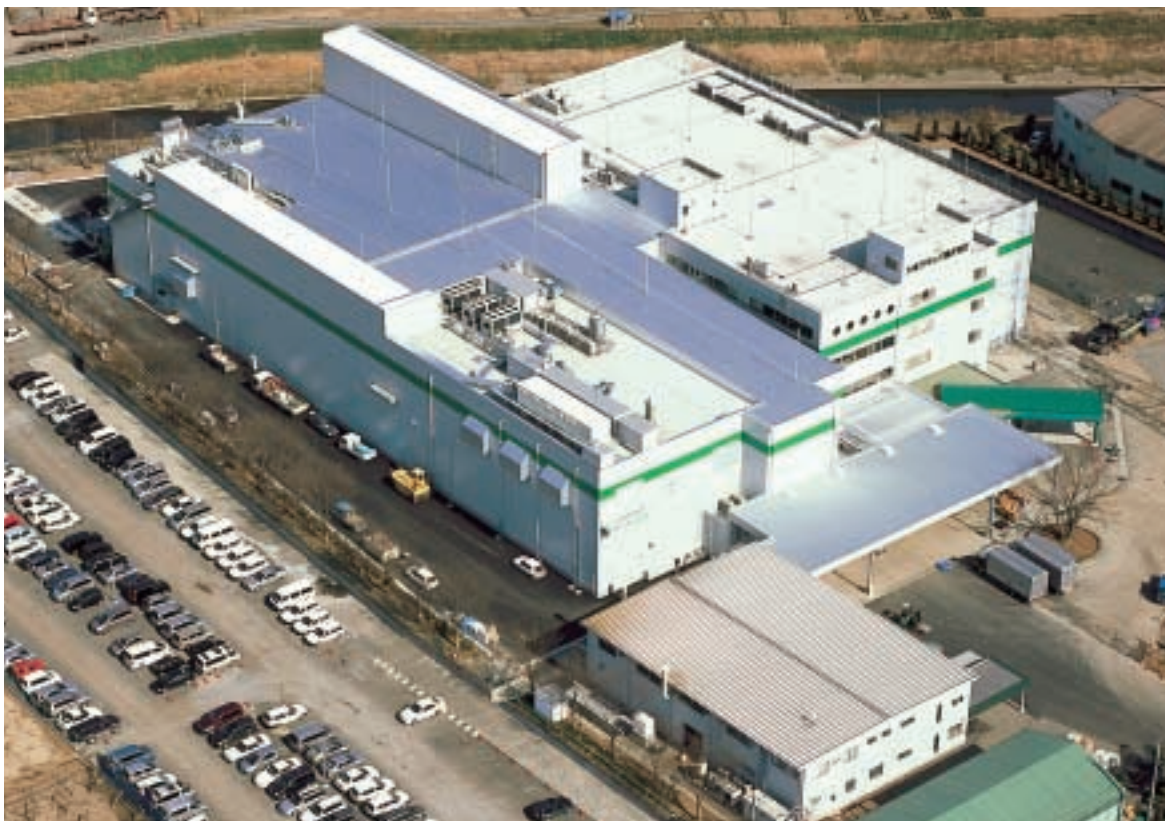
今後の経営戦略

今後の経済見通しにつきましては、景気は引続き回復するものと思われませんが、原油価格高騰の影響が懸念され、当社が主力とする食品業界は予断を許さない状況にあります。

このような状況のもと、包装フィルム部門につきましては、本年4月に札幌営業所を開設し、全国販売網による営業力の強化を図り、新規顧客の開拓、営業の深耕を推し進めてまいります。また、第4次生産設備増設による更なる生産力・品質管理体制の強化を図り、原材料価格の動向や環境問題への対応など、いかなる経

表紙の絵

洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。



営環境の変化にも迅速かつ効果的に
対応できる経営体制の確立と、企業
価値の向上に努めてまいります。

包装機械部門につきましては、平
成4年に販売を開始しました高速自動
充填機「NT-DANGAN」の累計出荷
台数が約500台となり、メンテナ
ンスなどサポート体制の充実を図ると
ともに、顧客のニーズに応じた積極
的な営業を目指してまいります。

また、新型液体用複合容器「PIC

(Pouch In Carton)」の開発や販売体制
の構築など、将来の事業基盤強化に
向けた研究開発を行ってまいります。

次期の見通し

平成19年3月期の業績見通しにつ
きましては、売上高152億23百万円
(前期比6.2%増)、経常利益14億13百
万円(同1.6%減)、当期純利益8億21
百万円(同7.3%減)を予定しており
ます。

株主の皆さまにおかれましては、
なお一層のご理解とご支援を賜りま
すようお願い申し上げます。

平成18年6月

代表取締役社長 **木お登**

包装フィルム部門

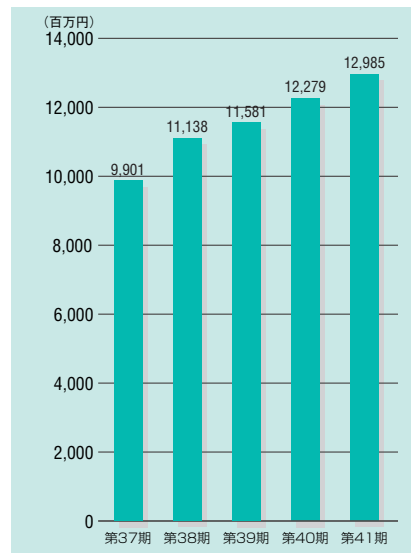
■ 事業内容

主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシングなどを入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレットリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

包装フィルム部門につきましては、液体包装に特化した事業展開を基盤に顧客のニーズを的確に捉え、高品質・短納期・安定供給の強みを活かした積極的な営業活動を展開いたしました。また、度重なる原材料の値上げ分については、主に本社新工場生産設備の増設による内製化を推し進め、生産力・技術力を強化し、生産効率の更なる向上を図りました。

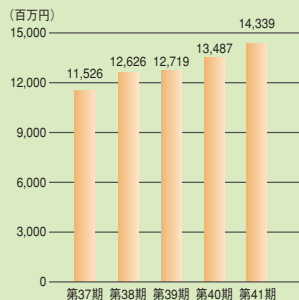
その結果、包装フィルム部門の売上高は129億85百万円（前期比5.7%増）となりました。

■ 包装フィルム部門売上高推移

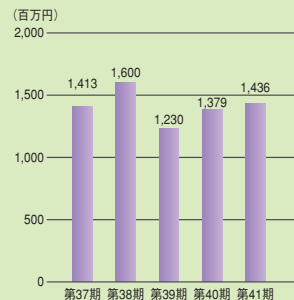


Financial Highlights 業績ハイライト

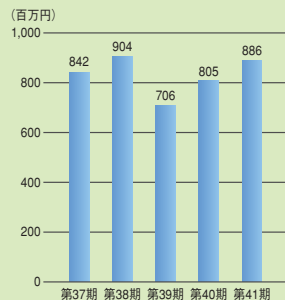
■ 売上高



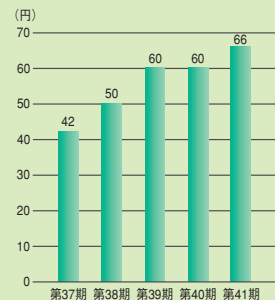
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 1株当たり配当金



包装機械部門

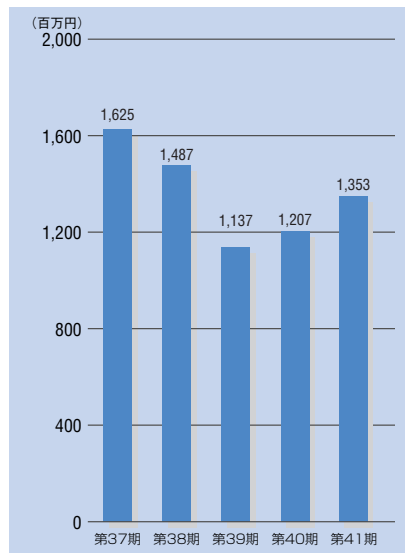
■ 事業内容

当社と日本精機（株）が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカーなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれなどの少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パックなどの大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

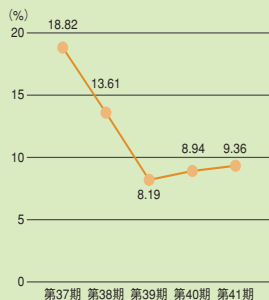
包装機械部門につきましては、前期後半からの堅調な商談と拡販のもと、液体充填のノウハウを基本軸に包装機械SE部門を中心とした、従来の液体小袋充填から業務用大袋充填までにおよぶサポート体制の強化を図り、より充実した顧客サービスに全力を挙げました。

その結果、包装機械部門の売上高は13億53百万円（前期比12.1%増）となりました。

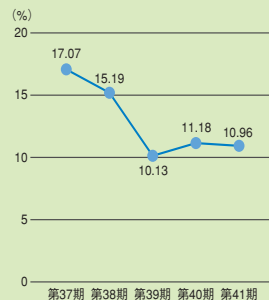
■ 包装機械部門売上高推移



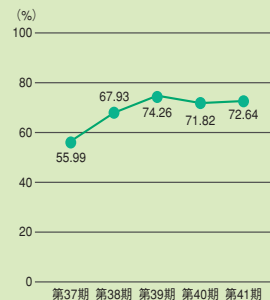
■ 株主資本当期純利益率



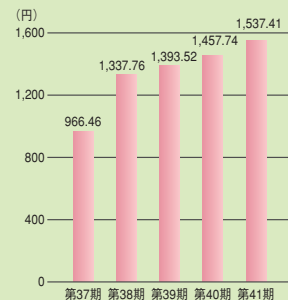
■ 総資本経常利益率



■ 株主資本比率



■ 1株当たり株主資本



食品の「おいしさ」と「安全」を守る 高度な食品包装用フィルム製造技術

当社で生産する液体・粘体用包装フィルムの約90%は食品用であり、食品包装では、開封時の利便性、賞味期限等の安全性、廃棄時における環境への対応などのニーズを満たす多様な機能が求められます。



食品のおいしさと安全性を保つ 高度な包装技術

お弁当に添付される調味料やインスタント麺のスープなどを包装する時は、加熱殺菌処理や無菌包装（アセプティック包装）を行い、内容物の保存期間や安全性を高めております。

加熱殺菌処理を行う場合は、食品の種類や量、賞味期限の設定、味のバランスなどを考慮し、ポイル殺菌やレトルト殺菌が行われます。

このような包装条件に対応するため、異なる特性をもつフィルムを組み合わせ、さまざまなニーズを満たす最適な包装フィルムを提供しています。



素材の機能・特性の組み合わせにより 多様な条件に応える包装フィルムを開発

例えば、液体包装用フィルムは、ベース、サンド、シーラントの3つの異なる特性を持つフィルムから構成されており、ナイロン、ポリエステル、ポリエチレンなど多種多様なフィルム素材が使用されています。

加えて安全性を保つため、当社では加熱殺菌処理とは別に、直射日光に対する遮光性、酸素による品質劣化を防ぐガスバリア性などを高めるフィルム構成や、多様な包装条件に対応するための高機能な特性を持つ複合フィルムを開発しています。

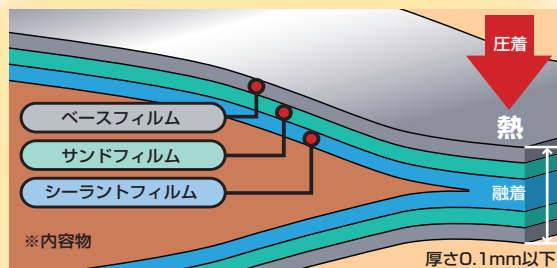
高度化する食品メーカーの生産ニーズに 独自の技術で応える

複合フィルムの構成において、フィルムを袋状にする役目を持つのが下のフィルム断面図に示した最も内側のシーラントフィルムです。

当社では、独自のシーラントフィルムを開発し、高速充填においても内容物がもれない液体包装の効率・安定化を実現することにより、食品メーカーなど多くのユーザーの生産性向上に大きく貢献しております。

フィルムの種類・素材・機能

ベースフィルム	ナイロン (PA) ポリエステル (PET)	印刷適性、耐熱性、 耐ピンホール性、 耐スクラッチ性
サンドフィルム	アルミ箔 (M) 蒸着ポリエステル (PET)	ガスバリア性、 紫外線遮断性
シーラントフィルム	ポリエチレン (PE) ポロプロピレン (PP)	シール強度、 低温ヒートシール性、 耐水・耐酸・耐油性



フィルムの断面図

貸借対照表

（単位：百万円）

科目	第41期	第40期
	平成18年3月31日現在	平成17年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	8,344	8,007
現金及び預金	2,674	2,353
受取手形	1,133	1,068
売掛金	2,898	3,049
たな卸資産	1,459	1,390
その他	181	150
貸倒引当金	△ 2	△ 4
固定資産	5,046	4,809
有形固定資産	4,414	4,249
建物	2,008	2,081
構築物	119	135
機械及び装置	1,270	972
車両運搬具	4	7
工具器具備品	156	178
土地	839	839
建設仮勘定	14	33
無形固定資産	113	122
投資その他の資産	518	437
投資有価証券	442	346
その他	98	107
貸倒引当金	△ 21	△ 16
資産合計	13,390	12,816

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント！

機械及び装置

本社新工場第3次生産設備として印刷機やスリッター機などの取付けにより、機械及び装置が増加しました。

科目	第41期	第40期
	平成18年3月31日現在	平成17年3月31日現在
●負債の部		
流動負債	3,458	3,460
買掛金	2,532	2,410
未払金	341	539
未払法人税等	356	306
未払消費税等	38	20
賞与引当金	176	170
その他	11	13
固定負債	204	150
退職給付引当金	99	88
役員退職慰労引当金	64	61
繰延税金負債	40	—
負債合計	3,663	3,610
●資本の部		
資本金	2,408	2,408
資本剰余金	2,896	2,896
利益剰余金	4,327	3,860
その他有価証券評価差額金	95	40
自己株式	△ 0	△ 0
資本合計	9,727	9,205
負債及び資本合計	13,390	12,816

ここがポイント！

資本

当期末の株主資本は、9,727百万円となり、株主資本比率は前期に比べ0.82%向上し、72.64%になりました。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	第41期	第40期
	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
売上高	14,339	13,487
売上原価	10,892	10,188
売上総利益	3,447	3,299
販売費及び一般管理費	2,029	1,938
営業利益	1,417	1,360
営業外収益	25	31
営業外費用	6	12
経常利益	1,436	1,379
特別利益	90	—
特別損失	13	37
税引前当期純利益	1,513	1,342
法人税、住民税及び事業税	617	535
法人税等調整額	10	1
当期純利益	886	805
前期繰越利益	123	141
中間配当額	207	189
当期末処分利益	802	757

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

売上総利益：原油価格の高騰による原材料価格値上り分について製品売価に転嫁する一方、外注加工率などの経費削減や生産効率の更なる向上に努めました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第41期	第40期
	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,641	1,119
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 930	△ 455
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 396	△ 408
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	314	255
現金及び現金同等物の期首残高	1,546	1,290
現金及び現金同等物の期末残高	1,860	1,546

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は9億30百万円となりました。これは主に、本社新工場生産設備等の有形固定資産の取得による支出9億13百万円によるものです。

利益処分

(単位:百万円)

科目	第41期	第40期
	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
当期末処分利益	802	757
任意積立金取崩額	8	2
利益処分量	652	636
配当金	207	188
役員賞与金	42	22
任意積立金	402	425
次期繰越利益	157	123

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

配当金
当期は、中間配当と合わせ、1株当たり66円の年間配当を実施した結果、配当性向は49.26%となりました。

札幌営業所の開設により、全国規模の販売網を確立

- ② 東北営業所
- ③ 仙台営業所
- ⑤ 名古屋営業所
- ⑥ 大阪営業所
- ⑦ 福岡営業所



① 札幌営業所

北海道市場開拓に向けて、 札幌営業所を開設

当社では、平成16年に大阪営業所を開設し、平成18年に仙台地域の営業体制を再編するなど、全国主要都市での営業拠点整備を推進しています。

平成18年4月3日には、より地域に密着した営業展開と、さらなる市場の開拓・深耕を図るため、札幌市中央区に札幌営業所を開設いたしました。これにより当社は、国内の主要都市全てに拠点を置く、全国規模のソリューションネットワークを確立いたしました。

札幌営業所

札幌市中央区南4条西10丁目1005番1
フクヤマビル5F

電話 011-533-1881

FAX 011-533-1883



④ 本社・新工場(埼玉県)

■ 会社概要 (平成18年3月31日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 登

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズなどの開発製造販売
高速液体自動充填機「NT-DANGAN」および周辺機器の開発販売

従 業 員 数 296 (男子258名 女子38名)ほか
臨時従業員76名

主 な 事 業 所 本社・工場 (埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 東北、名古屋、大阪、福岡

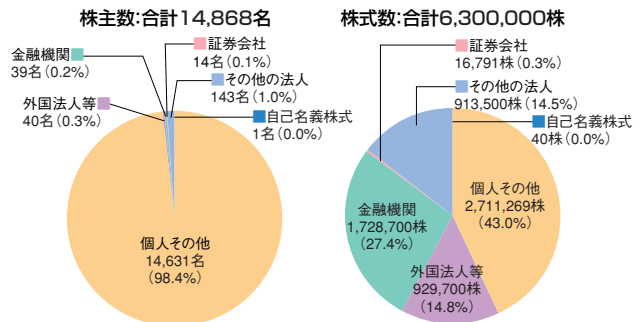
■ 役員一覧 (平成18年6月21日現在)

代表取締役社長	木 村 登
専務取締役 (管理本部長)	木 村 義 成
常務取締役 (R&D本部長)	二 瀬 克 規
取締役 (営業本部長)	村 山 淳 司
取締役 (営業本部副本部長)	古 村 博
取締役 (生産本部長)	山 口 政 春
常勤監査役	里 村 睦 男
常勤監査役	裁 松 修
監査役	山 本 実
監査役	三 浦 芳 治

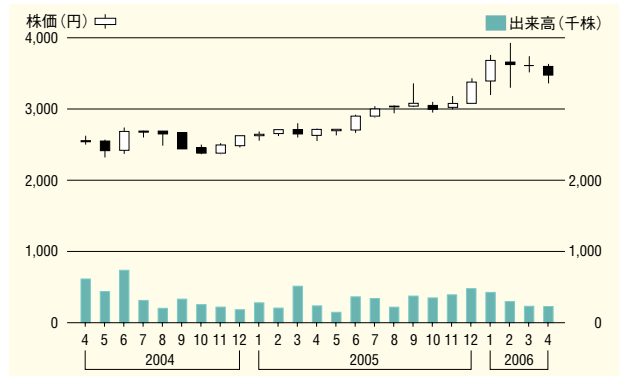
■ 株式状況 (平成18年3月31日現在)

- ・ 会社が発行する株式の総数 20,000,000株
- ・ 発行済株式総数 6,300,000株
- ・ 株 主 数 14,868名

■ 所有者別株式分布 (平成18年3月31日現在)



■ 株価 / 出来高の推移



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 (http://www.lamick.co.jp)
上場証券取引所	東京証券取引所

株主優待のお知らせ

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

毎年、3月31日または9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」をお届けいたします。

なお、今回は6月上旬に発送いたしました。



今回送付の食品詰合せ写真



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い変えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

社 名 **大成ラミック株式会社** (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

●本報告書は、100%再生紙を使用しています。